



●緑の色彩心理について

緑は自然や調和を象徴し、心に安らぎと落ち着きをもたらす色と言われています。

視覚的な刺激が強すぎず、心のバランスを整え安心感やリラックスを求める場面で自然と選ばれやすい色なので、私も緑を服装の一部に取り入れたりします。緑が持つナチュラルな印象が、周囲に安心感を与え親しみやすさを伝え、人との関わりをスムーズにするので、大学の講義でも緑のコーディネートを取り入れます。イメージ用語からは、緑は希望や成長を象徴する色で前向きでフレッシュな気分を運んでくれる色と言われています。緑の色彩心理は、ビビットな緑は活動的で、ダークな緑は落ち着いた意味があり、静と動の意味を持ち洗練された服装やインテリアにも多く取り入れられています。緑は流行に左右されず、人に好まれやすい色で、取り入れることで心と空間に柔らかな調和が生まれます。暖色の温かさや寒色の清涼感と寄添いながら全体のバランスを整える中間色の役割もあり、色同士が主張し合う中で、緑が、バランスを取る役割を果たしています。草木の緑は、赤やピンクの花々を引き立てて調和しているのがわかります。(幹事・田森恭子)

●日本塗料工業会色彩セミナー紹介

(一社)日本塗料工業会で開催される、「色彩セミナー」を紹介いたします。

今回は、カラートレンドやカラーコミュニケーションがテーマの2題の講演を企画しております。

1. 時代を映し出すカラートレンド

～モビリティカラーから読み解く時代の声～

武田 里美 氏(一般社団法人日本流行色協会 カラートレンド R&D プランナー 季刊「流行色」編集長)

2. 多様性を活かすカラーコミュニケーションの世界

名取 和幸 氏(一般財団法人日本色彩研究所 理事長)

【日 時】2025 年 11 月 26 日(水)

13:30～16:00

オンデマンド配信:12月12日(金)まで

【会 場】東京塗料会館(11/26 定員 100 名)+WEB 配信の同時開催

【受講料】2,000 円(消費税込み・テキスト代含む)

【詳 細】スケジュールなどは下記で公開中
<https://www.toryo.or.jp/jp/event/seminar/color-seminar2025.html>

ご興味ある方はご参加ください。(小林輝雄)

●大辞泉ひろい読み 100-さ

先染め:さきぞめ。織物を織る前の糸、または紡績する前の繊維を染色すること。

咲き匂う:「匂う」は、色が照り映える意。色美しく咲く。美しく咲き乱れる。

桜色:さくらいろ。桜の花びらのような色。肌などの、ほんのりと赤みを帯びた色。

桜襲:さくらがさね。襲の色目の名。表は白で、裏は赤・葡萄染め・紫・二藍などの諸説がある。陰暦11月から3月にかけて用いる。

桜衣:さくらごろも。桜襲の衣。

桜紅葉:秋に桜の葉が紅葉すること。

笹色:ささいろ。濃い紅が乾いたときの、青黒く光って見える色。

笹紅:ささべに。笹色の紅。

薩摩黒:薩摩地方から産する黒い石。那智黒の代わりに盆石として用いられる。

雑毛色:ざつもうしょく。馬の毛色の一。暗色と淡色に毛がまじっているもの。

錆色:さびいろ。鉄錆のような色。赤茶色。

錆絵:さびえ。錆漆で絵や模様を描くこと。またその絵や模様。赤・青菜どの顔料を加えることもある。

宿月毛:さびつきげ。馬の毛色の名。錆のようなやや黒みを帯びた月毛色。

*大辞泉:小学館発行国語辞典(永田泰弘)